

フリマアプリに対する若者の利用実態に関する研究

—日中比較を中心に—

Study on the actual situation of young people's uses of Flea Market Apps

Focus on the comparisons between Japan and China

○李瑩瑩*

Yingying Li

1. はじめに

近年、シェアリング・エコノミーは新たな経済形態として世界を席卷し、人々の日常生活に浸み込んでいる。その中で、フリマアプリとレンタルは「モノのシェア」として重要な部分だと思われる。特に、日本におけるフリマアプリは2012年頃に登場してから、市場規模が拡大しつつあるとともに、益々人気となっている。経済産業省の推計によると、フリマアプリの市場規模は2016年の3052億円から2017年4835億円に増加しており、また、「シェアリングサービスの対象の多様化していく一方、フリマは引き続きシェアリング・エコノミーの中で大きな位置を占め続けると考えられる」ということが指摘されている。一方、中国のフリマアプリも発展しており、大きな市場規模を持っている。第一財經商業データセンターによると、2016年中国の遊休市場の規模は約4000億元に達し、「お出かけのシェア」の市場をはるかに超えている。言い換えれば、フリマアプリの市場規模は他の対象のシェア市場と比べると、非常に大きな経済利益を持っている。

フリマアプリの発展は大きな経済利益をもたらすと同時に、モノのリユースを促進するため、環境問題の解決に対してある程度の改善をもたらすことができるとも考えられる。しかし、フリマアプリに関する研究がまだ少ないため、フリマアプリの利用実態は十分に明らかにされていない。加えて、中国でも日本でもフリマアプリは発展しているが、利用者と非利用者たちの特徴も明らかになっていない。そこで、本研究では、両国の大学生に対するアンケート調査をもとに、フリマアプリの利用有無に関わる要因を分析し、中国と日本におけるフリマアプリの利用者特性を把握し、どのような人々がフリマアプリを利用するのかを明らかにすることを目的とする。

2. 分析方法

本研究では、数量化Ⅱ類を用いたモデルを構築し、フリマアプリの利用有無に各要因が及ぼす影響を分析する。具体的には、フリマアプリの利用有無を目的変数とし、個人属性、経済状況、買物習慣、環境意識という4つの要因群から、性別、ライフスタイル、アルバイトの有無、自由に使える金額、買物頻度、買物機会、フリマアプリ以外の中古店の利用

* 千葉大学人文公共学府 Graduate School of Humanities and Studies on Public Affairs, Chiba University 〒263-8522 所属住所 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33 TEL&FAX 043-251-1111
E-mail: rieiei007@yahoo.co.jp

有無、モノの再利用意識の有無という8項目を説明変数とした。

3. 分析結果

数量化Ⅱ類の分析結果により、日本と中国におけるフリマアプリの利用有無予測モデルは図1と図2に示す。日本の場合では、「フリマアプリ以外の中古店などの利用有無」、「普段の買物頻度」、「普段の買物機会」、「自由に使える金額」という4つの要因はフリマアプリの利用有無に大きい影響（レンジは1.000を超えた）を与えることが見られる。相関比は0.002（F検定：5%で有意差がある）、判別の中率は71.54%となっている。一方、中国の場合では、「フリマアプリ以外の中古店などの利用有無」、「自由に使える金額」という2つに要因はフリマアプリの利用有無に大きな影響（レンジは1.000を超えた）を与えることがわかる。相関比は0.368（F検定：5%で有意差がある）、判別の中率は79.33%となっている。

両国の共通点としては、「女性」、「一人暮らし」、「アルバイト有り」、「フリマアプリ以外の中古店などの利用有り」、「モノの再利用の意識有り」の方々がよりフリマアプリを利用する傾向があることがわかる。それに対して、両国の相違点に関しては、日本の場合では、普段の買物頻度が高く、「主にスマホとパソコン」の買物機会の方々は、よりフリマアプリを利用する傾向があることが見られる。逆に、中国の場合では、普段の買物が低く、「主にパソコン」の買物機会の方々は、よりフリマアプリを利用する傾向があることが見られる。

4. 結論

本研究では、数量化2類を用いて日本と中国におけるフリマアプリの若者利用者の特性を分析した。分析結果により、フリマアプリの利用有無に影響を与える要因に関する影響度を明らかにした。また、両国のフリマアプリの利用実態を比較した上で、共通点と相違点もわかった。循環型社会を推進するために、フリマアプリは有力なリユースの手段の一つとして大きな役割があると言われる。そのため、予測モデルを用いて、さらなる利用者の特性に応じた政策を立てる必要があると思われる。

